

## 特集 文化の移動と越境

- 岡田裕成 美術の移動と「境界上の現象」  
本谷裕子 グアテマラ高地先住民女性の織りと装いが織りなす異文化受容  
柳沢史明 フランス人宣教師らが見たアフリカの〈呪物〉と〈芸術〉——アフリカ宣教会とダオメ  
井関和代 海峡を渡った布——インドから西へ  
内海涼子 インドネシアの香料交易と染織  
山田小夜歌 世紀転換期ロンドンのヴァラエティ劇場におけるバレエ  
中津川祥子 浅草オペラにおける歌劇団と俳優の流動性について  
齋藤美保子 浅井忠における洋行の美学——洋画と詩歌

## シンポジウム 「トランス」の再考：文化の移動と越境

- 永原恵三 「トランス」の再考：文化の移動と越境  
一柳智子 原災による避難から帰還の間における民俗芸能の意義の変容——福島県浪江町請戸芸能保存会の動向を事例として  
海野るみ 境界性を生きる——南アフリカ・グリクワの人々の歴史の技法と移動・境界・越境  
山下正美 民族楽器の受容と越境——日本におけるクルグズ（キルギス）の楽器コムズを例に

## 民族藝術学の諸相

- 神林恒道 『古寺巡礼』再読—和辻哲郎と古都の賛美者たち  
丸山果織 未入稿  
湯浅健次郎 會津八一における書の近代性 活字との関係から  
乾 淑子 日清日露戦争の時代——メディアと戦争柄着物  
高曾由子 近代漆芸家六角紫水の「楽浪」受容——《理想界の図詩絵手箱》から  
川井田祥子 障害者の創作活動への支援政策に関する考察——高松市と大阪府の事例から  
盛谷理絵 沖縄の沈殿藍づくりにおける旧製造法の復活  
小林善帆 植民地サイパンの高等女学校といけ花・茶の湯・礼儀作法  
長谷川悟郎 民族宗教遺産としての機織り—マレーシア・サラワク州のイバン・エスニックテキスタイル  
岡戸香里 共生の音楽—ジャワガムランにおける即興演奏  
倉脇雅子 ヨアヒム・ラフの交響曲におけるドイツ民族の表象——「ドイツの統一」について（第4楽章から第5楽章を中心に）  
太田峰夫 『ジプシーとハンガリーにおける彼らの音楽について』（1859年）におけるリスト・フェレンツのツインバロム観について——作曲家リストと19世紀後半の普及運動との関係をめぐる—考察  
重川真紀 シマノフスキにとっての原始主義——ストラヴィンスキーとの関わりから  
奥坊由起子 イングランド音楽におけるフォークソング観——〈田舎〉観にみる多義性

## 民族藝術学の現場

- 乾 淑子 ゴジラ展と映画「シン・ゴジラ」またはミュージアムグッズ  
畑井 恵 「よそもの」たちの試み——KOTOBUKIクリエイティブアクションの事例から  
佐藤真実子 「アール・ブリュット美術館」におけるコレクションとアーカイヴ  
堤 春恵 人形劇と音楽—語りとしてのチェロと三味線  
金原宏行 大津絵——江戸の庶民絵画  
堀切正人 町おこしと展覧会——伊豆の長八展を例に  
濱田琢司 地域文化を志向／思考するアート  
伊従 勉 増田友也生誕100周年記念建築作品展  
加藤類子 たけのこ畠の虹——三浦景生の生き方  
山本真紗子 明治工芸研究のさらなる深化

吉田雅子 「現代美術が終わっても」——工芸と美術の新たなる「接続」  
上原真依 アメリカにおけるカルロ・クリヴェッリ  
南城 守 古都祝奈良（ことほぐなら）—— 時空を超えたアートの祭典  
中塚宏行 秋山陽 土と炎の変容——大地の皮膜を削り、生の証しを刻印し、火で変容させる  
藺田 郁 見世物のなかの伊勢大神楽——ワザに宿る場  
小野尚子 新たな美術館を歩く——サンフランシスコ近代美術館とメット・ブロイヤーの展示について  
川田都樹子 ロンドンの「アンチ・アートセラピー」  
佐々木千恵 コレクションの力  
吉原美恵子 この惑星（ほし）に生まれて——今村源+三嶽伊紗+アート・メッセンジャー  
吉岡一洋 マリメッコ展とデザインの動勢  
竹口浩司 未来をともにつくるために  
小林純子 沖縄陶芸の戦後史——その広がりと深化

### 第13回木村重信民族藝術学会賞

橋爪節也 萩原由加里著『政岡憲三とその時代 「日本アニメーションの父」の戦前と戦後』  
天野文雄 板谷徹著『近世琉球の王府芸能と唐・大和』

### 大会報告

永原恵三 第32回民族藝術学会大会報告

### 彙報